

積水化学工業株式会社



2022年度（2023年3月期）

第3四半期 決算説明会

代表取締役 専務執行役員
上脇 太

2023年1月30日

2022年度第3四半期実績および通期見通し

為替レート	2021年度			2022年度			
	3Q	4Q	下期	3Q	4Q	下期	下期計画 (10月)
社内前提	-	-	-	¥135/US\$ ¥137/€	¥136/US\$ ¥144/€	¥139/US\$ ¥144/€	¥135/US\$ ¥137/€
実績 *期中平均	¥114/US\$ ¥130/€	¥115/US\$ ¥130/€	¥115/US\$ ¥130/€	¥142/US\$ ¥144/€	-	-	

※輸出は社内前提レート適用。為替感応度は社内前提レートで対USドル1円（円安）あたり営業利益+約5億円/年

2022年度第3四半期および第3四半期累計 損益概要

- 3Qは増収、営業利益は増益。経常利益、最終利益は主に為替差損影響により減益
- 3Q売上高、営業利益は、計画（10月）をやや下回って進捗
- 3Q累計は増収、営業利益・経常利益・最終利益とも増益

(億円)	2021年度 3Q実績 (10-12月)	2022年度 3Q実績 (10-12月)	増減	2021年度 1Q-3Q実績 (4-12月)	2022年度 1Q-3Q実績 (4-12月)	増減
売上高	2,907	3,045	+138	8,387	9,122	+736
営業利益	219	221	+2	575	625	+50
経常利益	218	195	▲23	628	734	+106
親会社株主に帰属する 四半期純利益	167	137	▲29	127	528	+401

■ 3QはCOVID-19再拡大（国内、中国）、インフレによる需要減（グローバル）の影響を大きく受けるも、売値改善を進め、増収、営業増益を確保

- ・高機能P*：中国、欧州を中心とした需要減の影響大。原燃料高騰の影響縮小、売値改善、CRにより、営業利益は前年並みを確保
- ・住宅*：新築受注減少、部材高騰影響継続も、棟単価UP、売上棟数最大化、平準化、リフォーム注力により増益確保
- ・環境LL*：住宅市況は想定を下回るも、重点拡大製品の拡販および、スプレッド維持に注力し、大幅増益
- ・メディカル：中国ロックダウン、米国COVID-19検査キット承認遅延影響を、国内外検査需要増および堅調な医療事業によりほぼオフセット

■ 3Q累計では各セグメントとも増収増益

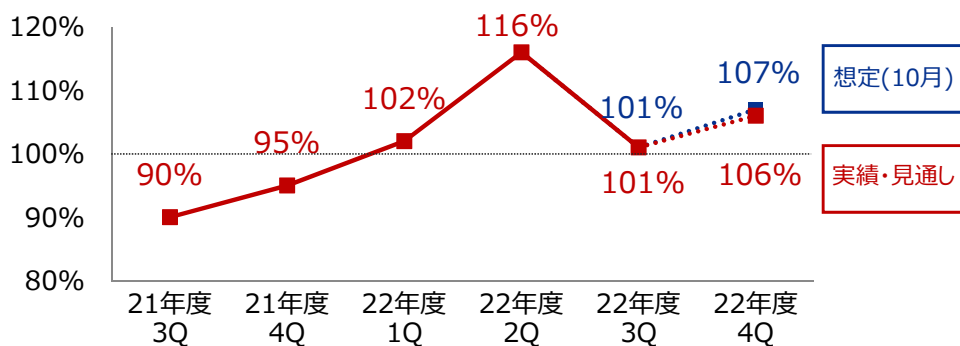
(億円)	2021年度 3Q実績 (10-12月)		2022年度 3Q実績 (10-12月)		増減		2021年度 1Q-3Q実績 (4-12月)		2022年度 1Q-3Q実績 (4-12月)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	935	122	1,006	122	+72	0	2,636	315	3,056	340	+420	+25
住宅	1,233	66	1,290	67	+57	+1	3,731	214	3,892	214	+161	0
環境LL	535	31	566	41	+31	+11	1,496	63	1,640	102	+144	+39
メディカル	241	36	224	34	▲17	▲3	638	85	653	88	+16	+3
その他	11	▲24	15	▲28	+4	▲4	30	▲76	56	▲83	+27	▲6
消去又は全社	▲48	▲11	▲57	▲14	▲9	▲3	▲144	▲26	▲175	▲38	▲31	▲11
合計	2,907	219	3,045	221	+138	+2	8,387	575	9,122	625	+736	+50

*高機能P = 高機能プラスチックカンパニー *住宅 = 住宅カンパニー *環境LL = 環境・ライフラインカンパニー

■ 下期の自動車生産は概ね想定（10月）通りも、スマホは需要低迷が長期化し想定を大幅に下回って推移する見通し。原料価格は想定を下回って推移

グローバル自動車生産台数 (前年同期比)

半導体不足による減産影響継続、中国再ロックダウン影響を受けるも、概ね想定（10月）通り推移



住宅・集客 (前年同期比)

来展はCOVID-19影響残るも、集客全体では回復基調

	FY22 上期	FY22 3Q	FY22 4Q見通し	FY22 下期見通し
集客全体	96%	104%	100%	102% [100]
資料請求 (WEB等)	91%	108%	102%	104% [100]
展示場 来店	98%	96%	97%	96% [104]

※ []内は計画 (10月)

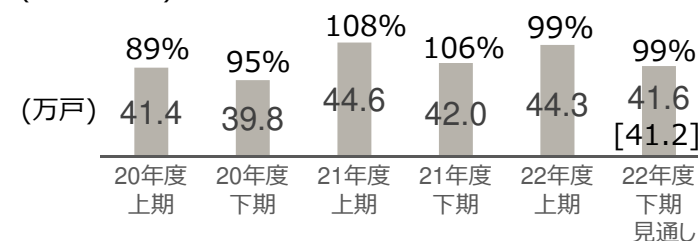
新設住宅着工

20年度比では回復基調も、22年度は前年をわずかに下回る見通し

※ 環境LL各製品の需要発現：住宅着工後4～6ヶ月

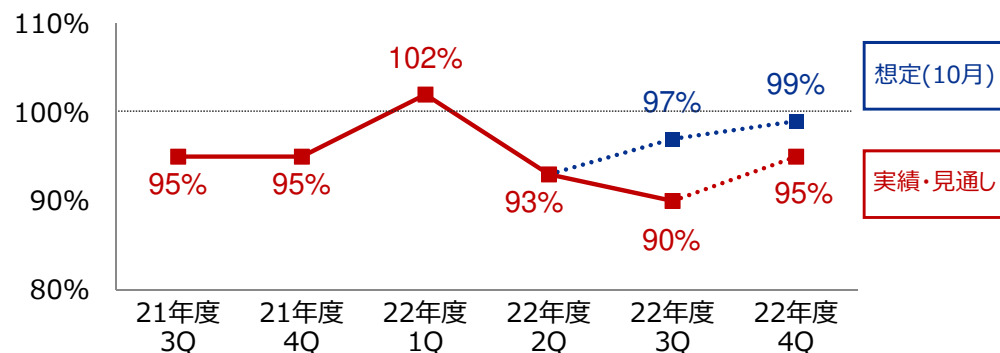
(前年同期比)

※ []内は想定 (10月)

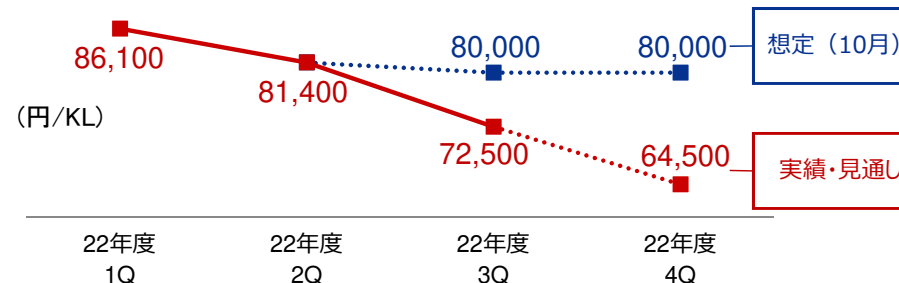


スマホ出荷台数 (前年同期比)

2Q以降、在庫調整影響が継続し、需要低調続く。4Q以降緩やかに回復も、想定（10月）は下回る見通し



国産ナフサ価格前提



2022年度下期見通し セグメント別

- 下期は全社で増収増益見通し。売上高、営業利益とも計画（10月）をやや下回って着地の見通し
- 売上高、営業利益を下方修正（営業利益▲50億円）
- 各セグメントとも増益確保の見通し

(億円)	2021年度 下期実績		2022年度 下期見通し		増減		2022年度 下期計画（10月）		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	1,887	230	2,087	242	+200	+12	2,160	262	▲73	▲20
住宅	2,654	205	2,828	207	+174	+2	2,878	222	▲50	▲15
環境LL	1,157	109	1,224	115	+67	+6	1,258	125	▲34	▲10
メディカル	489	63	471	70	▲17	+7	450	70	+21	0
その他	30	▲51	43	▲57	+13	▲5	48	▲55	▲4	▲2
消去又は全社	▲117	▲22	▲106	▲31	+10	▲9	▲112	▲28	+5	▲3
合計	6,100	534	6,547	547	+447	+13	6,682	597	▲135	▲50

2022年度下期見通し（3Q、4Q別）セグメント別

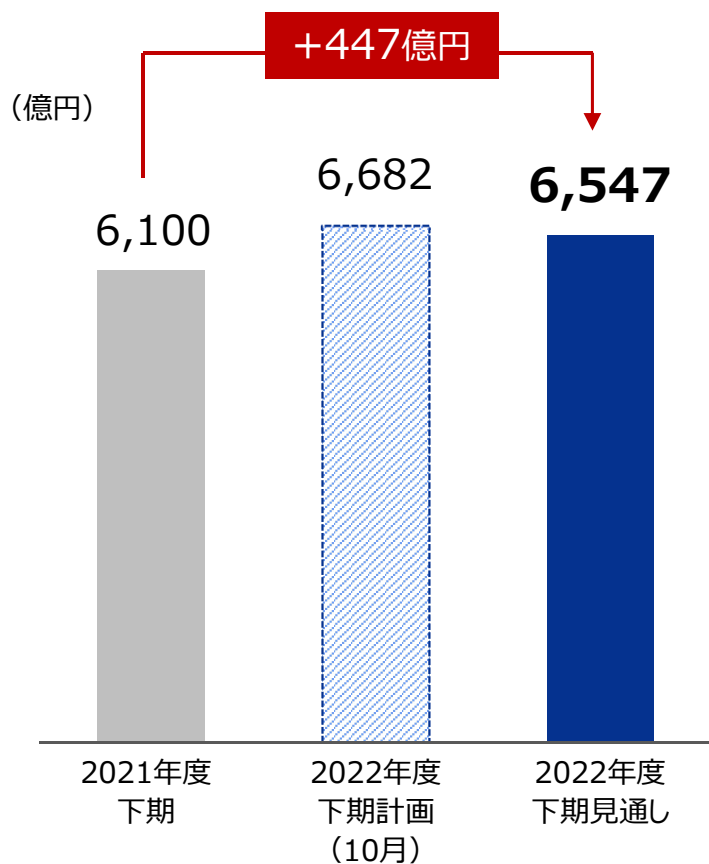
■ 4Qも引き続きスマホ生産などグローバル需要停滞影響大きく受けるも、原料高騰ピークアウトの中、スプレッド確保に注力し、増益確保

(億円)	2021年度 3Q実績		2022年度 3Q実績		増減		2021年度 4Q実績		2022年度 4Q見通し		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	935	122	1,006	122	+72	0	952	108	1,081	120	+129	+12
住宅	1,233	66	1,290	67	+57	+1	1,421	139	1,538	141	+117	+1
環境LL	535	31	566	41	+31	+11	622	78	658	73	+36	▲5
メディカル	241	36	224	34	▲17	▲3	248	27	247	37	▲1	+10
その他	11	▲24	15	▲28	+4	▲4	20	▲27	28	▲29	+9	▲2
消去又は全社	▲48	▲11	▲57	▲14	▲9	▲3	▲69	▲11	▲50	▲17	+19	▲6
合計	2,907	219	3,045	221	+138	+2	3,193	314	3,502	325	+309	+11

2022年度下期見通し 売上高・営業利益

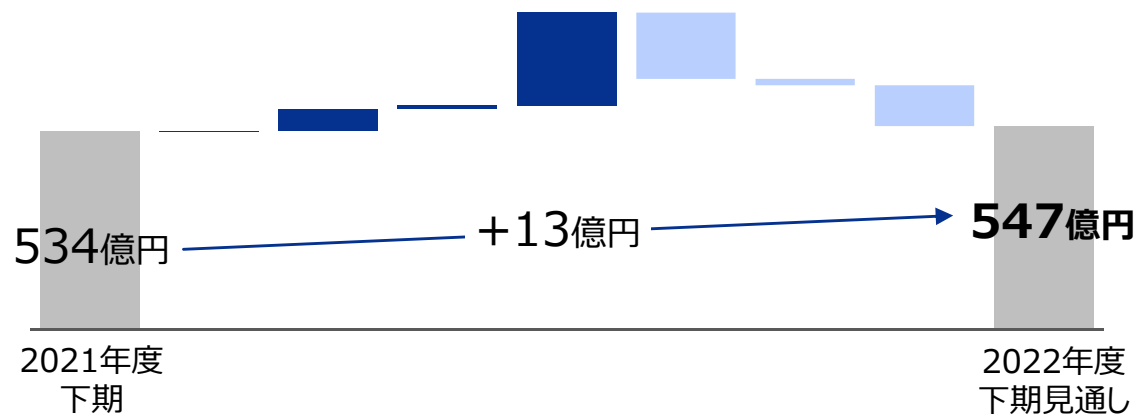
■ 「売値」改善、為替影響により増収増益の見通し。スプレッド確保に注力するも、グローバル需要減の影響を受け、大幅な「数量・構成」減により、全社で計画（10月）をやや下回って着地の見通し

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
下期計画 (10月)	+1	+59	+147	+229	▲206	▲53	▲113	+63
下期増減見通し	+1	+54	+8	+228	▲162	▲16	▲100	+13



	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
3Q増減	0	+35	▲36	+111	▲86	▲1	▲20	+2
4Q増減	+1	+19	+44	+117	▲76	▲14	▲79	+11

2022年度通期見通し セグメント別

- 全社、各セグメントとも増収増益確保も、メディカル事業をのぞき計画（10月）をやや下回る見通し
- 環境LL、メディカルは年度最高益を更新する見通し

(億円)	2021年度実績		2022年度見通し		増減		2022年度計画（10月）		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	3,588	424	4,137	460	+549	+36	4,210	480	▲73	▲20
住宅	5,152	353	5,430	355	+278	+2	5,480	370	▲50	▲15
環境LL	2,118	141	2,298	175	+180	+34	2,332	185	▲34	▲10
メディカル	885	112	900	125	+15	+13	879	125	+21	0
その他	49	▲103	85	▲111	+36	▲8	89	▲109	▲4	▲2
消去又は全社	▲213	▲37	▲225	▲54	▲12	▲17	▲230	▲51	+5	▲3
合計	11,579	889	12,625	950	+1,045	+61	12,760	1,000	▲135	▲50

- 事業ポートフォリオ適正化後の数値
- 次期中期でのシナジー創出最大化を目指す

(億円)	2021年度 実績		2022年度 見通し		増減		2022年度 計画(10月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	3,537	412	4,056	424	+519	+12	4,137	457	▲81	▲33
住宅	5,152	353	5,430	355	+278	+2	5,480	370	▲50	▲15
環境LL	2,159	152	2,372	211	+213	+59	2,396	208	▲24	+3
メディカル	885	112	900	125	+15	+13	879	125	+21	0
その他	49	▲103	85	▲111	+36	▲8	89	▲109	▲4	▲2
消去又は全社	▲203	▲37	▲218	▲54	▲15	▲17	▲221	▲51	+3	▲3
合計	11,579	889	12,625	950	+1,046	+61	12,760	1,000	▲135	▲50

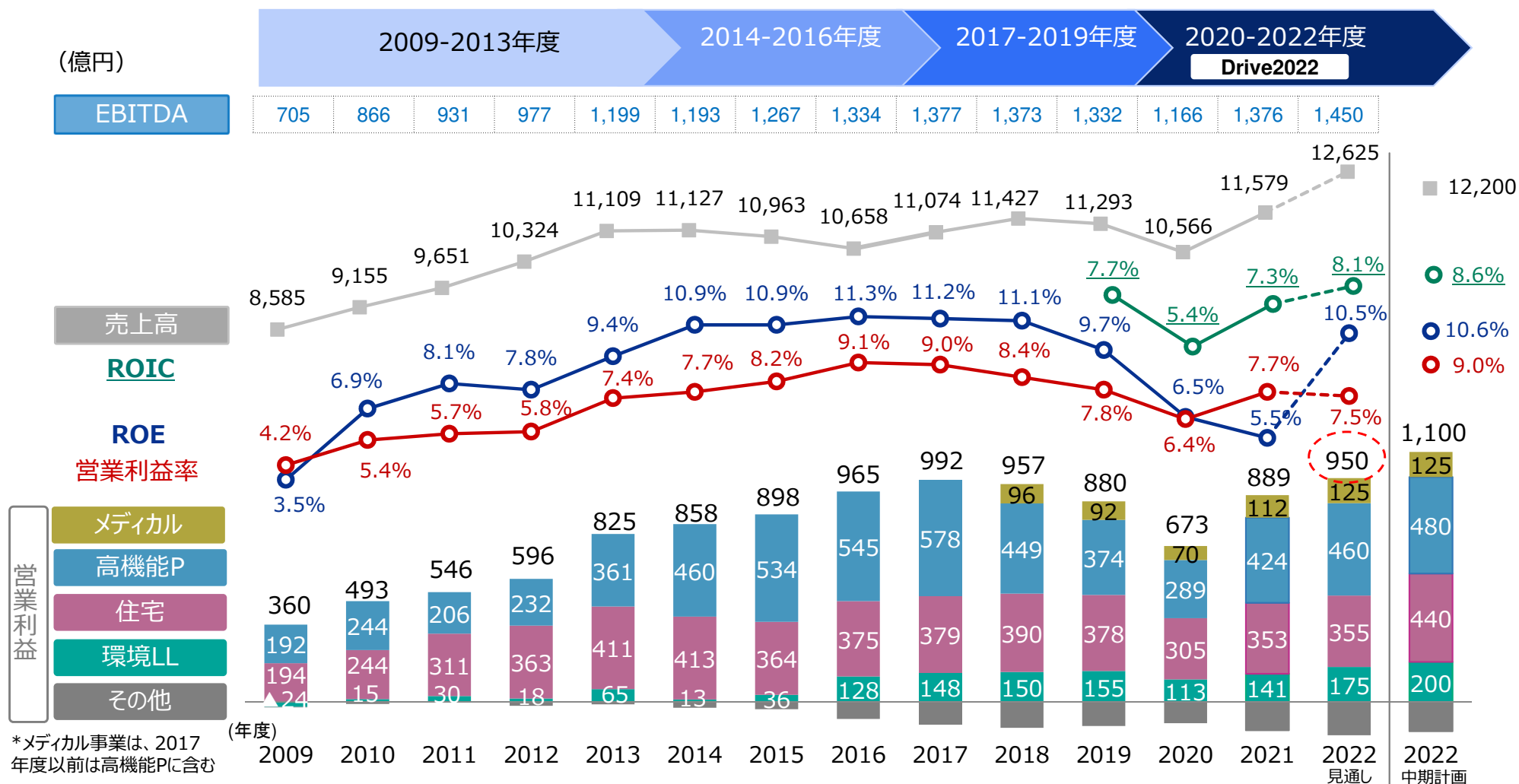
2022年度通期見通し 損益概要および株主還元

- 全社で増収、各段階の利益とも増益見通し
- 売上高、営業利益、経常利益は計画（10月）をやや下回るも、最終利益は計画通り着地の見通し
- 経常利益、最終利益は過去最高益を更新する見通し
- 配当は株主還元方針（配当性向35%以上）にもとづき、計画（10月）通り
1株あたり期末配当30円、年間59円（10円増配）

(億円)	2021年度 実績	2022年度 見通し	増減	2022年度 計画（10月）	差異
売上高	11,579	12,625	+1,046	12,760	▲135
営業利益	889	950	+61	1,000	▲50
経常利益	970	1,030	+60	1,080	▲50
親会社株主に帰属する 四半期純利益	371	730	+359	730	0
配当 (円/株)	49	59	+10	59	0

中期経営計画 Drive 2022の進捗

■ 事業体質（収益力）強化に継続して取り組み、次期中期計画へ向け「成長」へシフト



*メディカル事業は、2017年度以前は高機能Pに含む

外部環境

2008年10月	2011年3月	2014年4月	2018年3月	2019年10月	2020年2月~	2022年2月~
リーマンショック	東日本大震災発生	消費増税 <5%→8%>	世界貿易摩擦台頭	消費増税 <8%→10%>	COVID-19 感染拡大	ロシアによるウクライナ侵攻

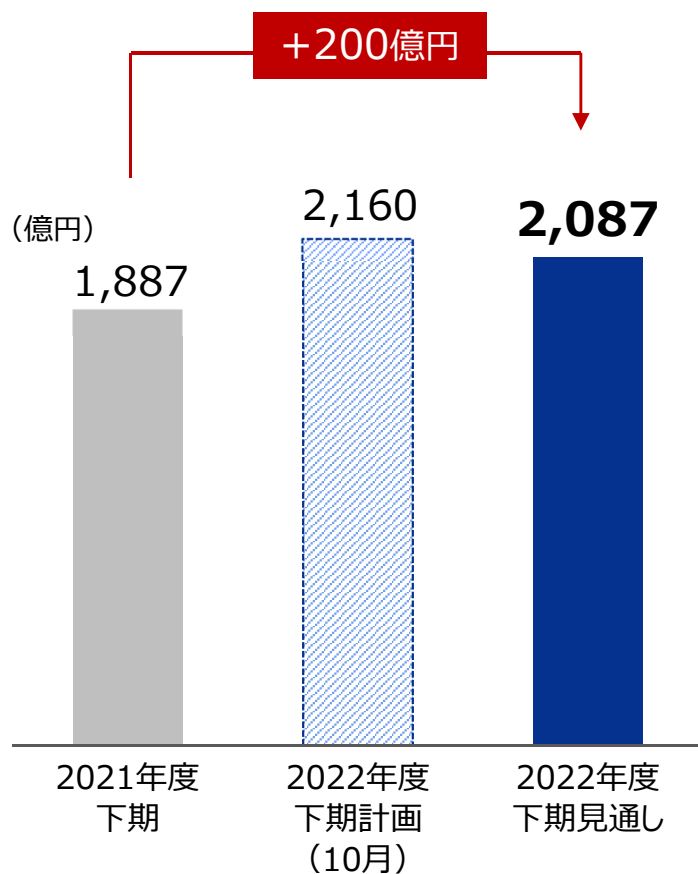
為替レート* (期中平均)

FY	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022*
¥/US\$	94	87	80	83	100	110	120	108	111	111	109	106	112	137

2022年度は想定 FY2022 (2020年5月時点) ¥106/US\$

中国COVID-19感染拡大、欧州を中心とした需要減の影響を受け、「数量・構成」大幅減。原燃料高騰の影響縮小によるスプレッド拡大、「売値」改善、「CR」、「固定費抑制」により増益確保も、計画（10月）はやや未達の見通し

売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
下期計画 (10月)	0	+49	+34	+143	▲105	▲50	▲39	+32
下期増減見通し	0	+45	▲62	+154	▲80	▲19	▲25	+12

項目	増減 (億円)
2021年度 下期	230
下期増減見通し	+12
2022年度 下期見通し	242

限界利益 ▲7億円

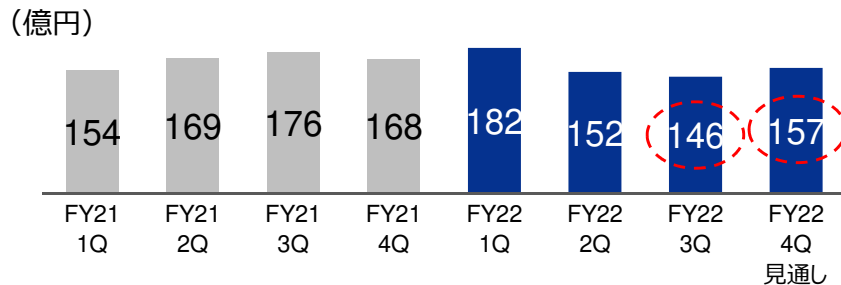
	3Q増減	4Q増減
連結増減	0	0
為替	+30	+14
数量・構成	▲50	▲12
売値	+74	+80
原料	▲45	▲35
CR等	▲7	▲12
固定費	▲2	▲23
合計	0	+12

中国を中心とするエレクトロニクス分野の需要減、回復遅れにより苦戦。モビリティ分野は概ね計画通り進捗も、建築需要低調により住インフラ材分野は想定を下回って推移。売値改善は計画通り

戦略3分野の売上高推移と進捗状況

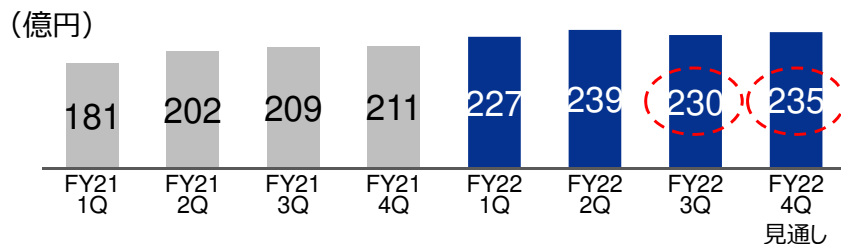
エレクトロニクス

- 3Q：液晶、非液晶とも2Qからの需要低調
- 4Q：需要は引き続き回復を見込まず。非液晶分野の新規獲得に注力。新機種の新規獲得を目指す



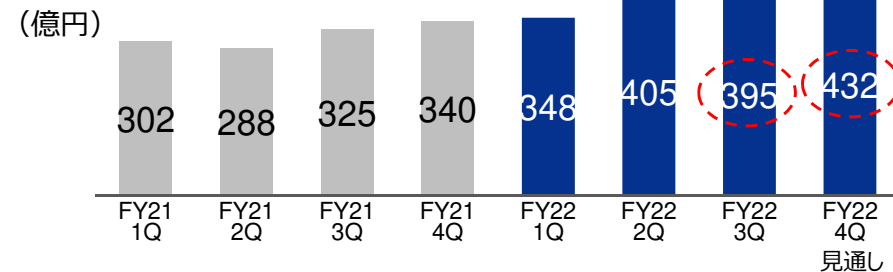
住インフラ材

- 塩素化塩ビ樹脂：インド向けを中心に需要堅調継続
- 断熱/不燃材料：新規顧客開拓により拡販好調
- 耐火材料：国内非住宅需要が減速

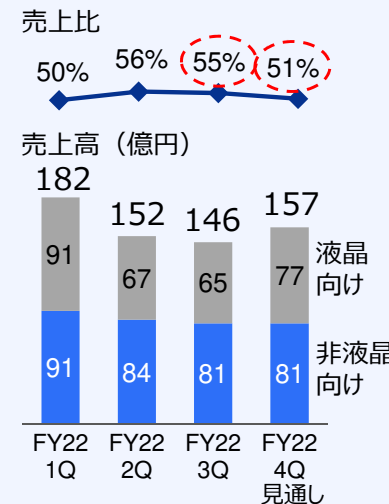


モビリティ

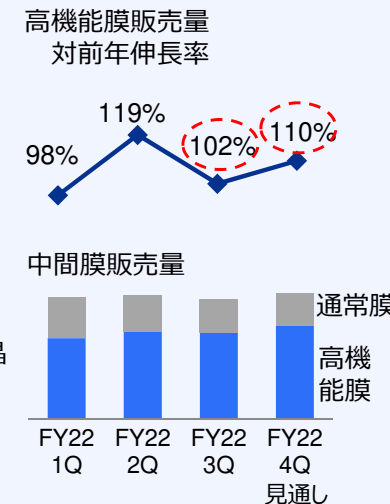
- 3Q：中国需要減。国内需要は良化も、欧州需要は想定通り。売値改善進捗、高機能膜拡販により、増収増益 (HUD膜22年度見通し115%超 *販売量ベース)
- 4Q：一定の自動車生産回復を見込む。引き続きHUD膜を中心とした高機能膜拡販および売値改善に注力。EV車向け放熱材料も堅調
- AEROSPACE社は緩やかに需要回復。計画をやや上回って進捗



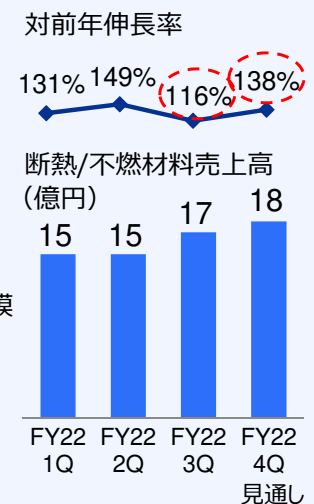
【非液晶分野注力】



【高機能中間膜拡販】

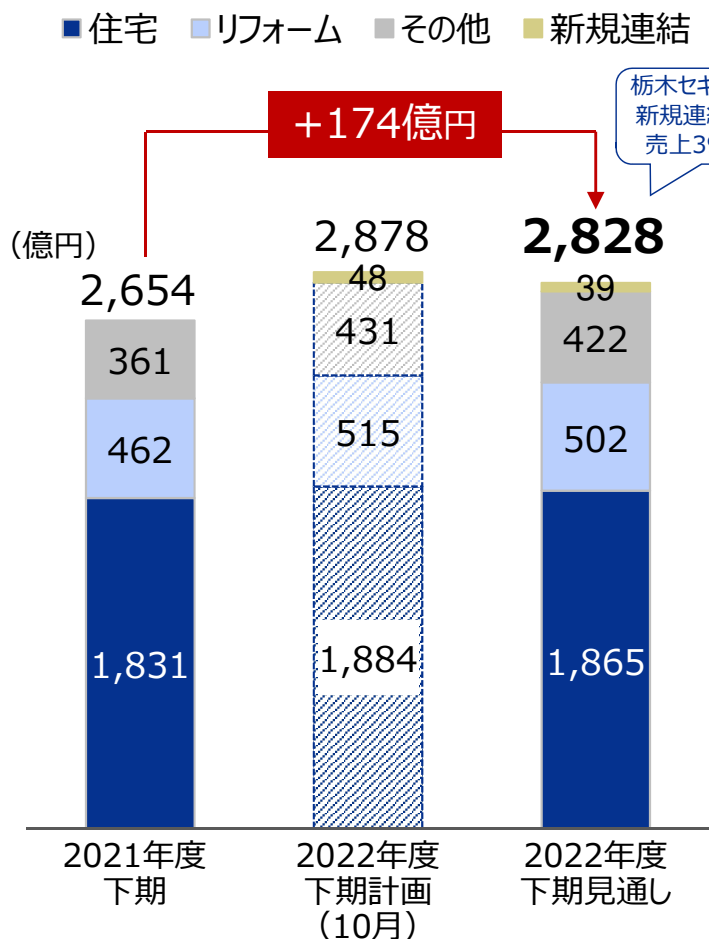


【断熱/不燃材料拡販】

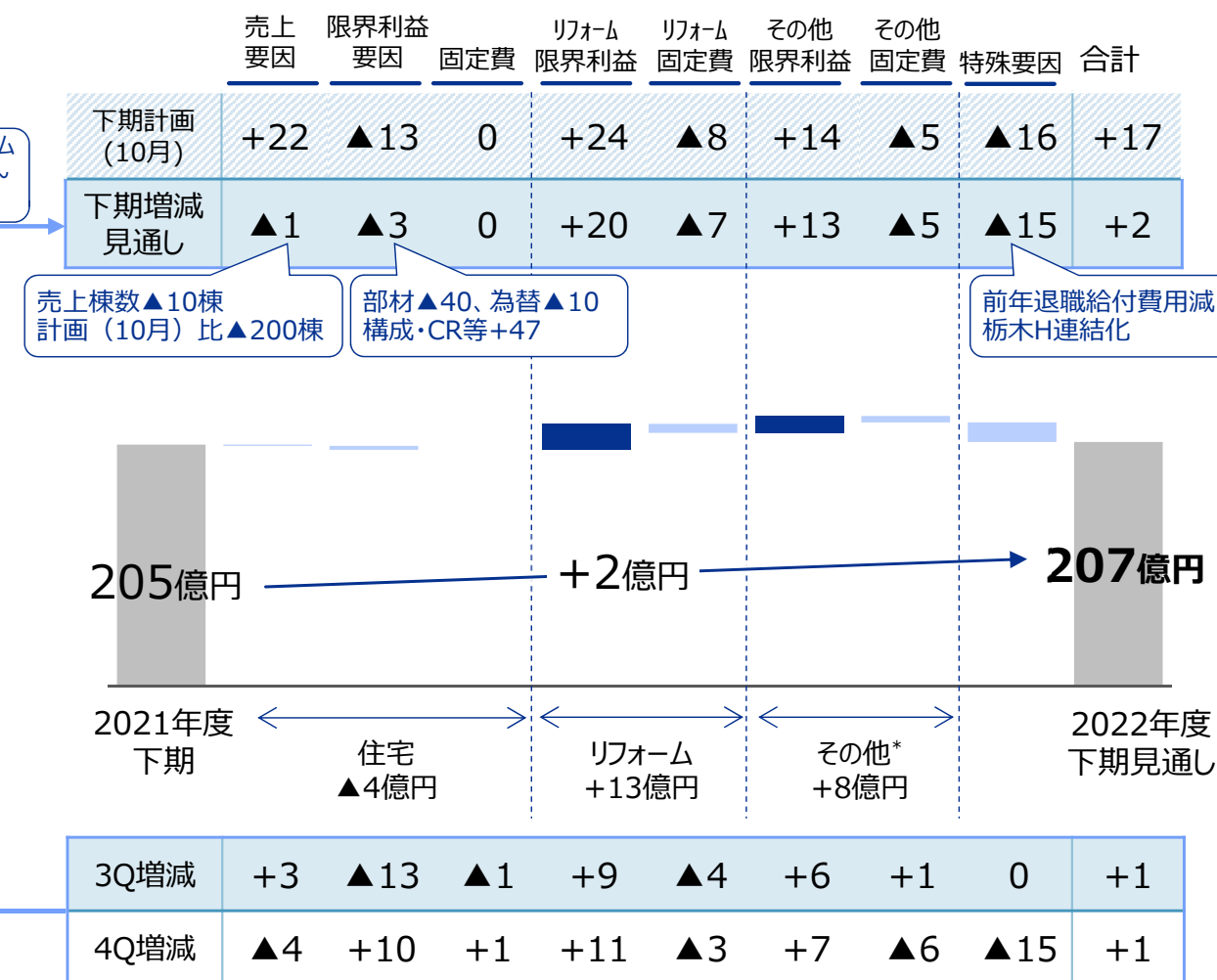


- 3Qは部材高騰が続く中、COVID-19、物価上昇、市況悪化等の影響により新築受注が減少も、売上棟数の最大化、平準化の推進、まちづくり事業の好調により、増益を確保
- 4Qは更なる市況悪化を想定も、建売、リフォームへの注力に加え、棟単価UPを継続。計画（10月）は未達の見通しも、下期増益を目指す

事業別売上高



営業利益増減要因分析



*その他 (不動産・まちづくり・海外・住生活・でんき)

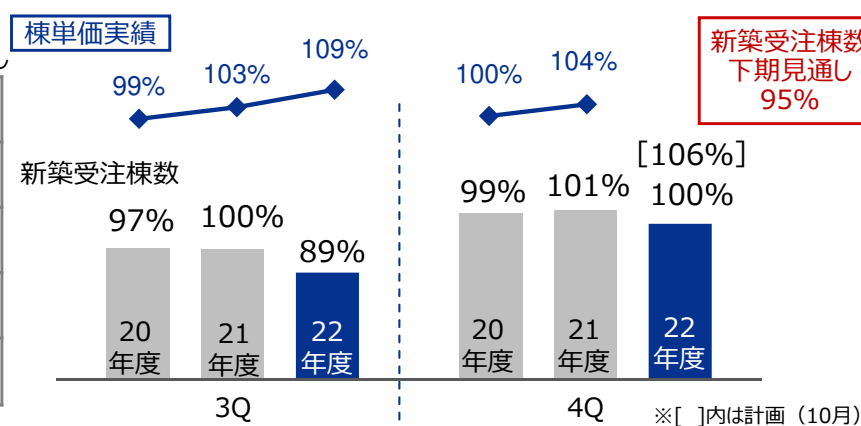
3QはCOVID-19や市況悪化の影響を受けるも、集客は回復基調。
分譲・建売強化により前年並みの受注確保を目指しながら、4Qの売上確保に注力

集客・建築種別受注棟数 (前年同期比)

	集客				建築種別受注棟数		
	FY22 上期	FY22 3Q	FY22 4Q見通し	FY22 下期見通し	3Q	4Q見通し	下期見通し
集客全体	96%	104%	100%	102% [100]	76%	87%	82% [105]
資料請求 (WEB等)	91%	108%	102%	104% [100]	94%	105%	100% [106]
展示場 来店	98%	96%	97%	96% [104]	85%	101%	94% [100]
					うち建売	83%	96% [101]
					トータル (集合含む)	89%	95% [105]

※[]内は計画 (10月) *1 土地 施主手配

新築受注棟数・1棟あたり単価 (前年同期比)



2022年度下期受注獲得施策

集客戦略

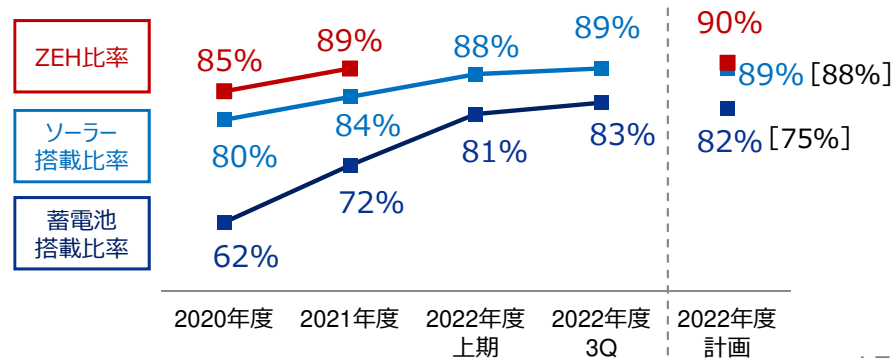
- リアルとデジタルを融合した創・育客手法の磨き上げ
 - オンライン・SNS+リアルイベントによる集客増
 - 会員制サイト「ハイムフェス」強化、活用促進
- 体験型施設の活用による顧客接点強化
 - ミュージアム、GREENMODEL PARKの活用(22年12月：65拠点)

商品戦略

- スマート&レジリエンスの更なる強化・差別化
 - ZEH・蓄電池の拡販による採用率向上、棟単価UP
 - 一次取得層向けスマート性能強化商品の拡充
 - エネルギー自給自足訴求、公的補助金の積極活用を推進

スマートハウス関連指標*

*戸建受注中の搭載比率(ZEH、ソーラーは北海道除く)
※[]内は年度計画 (4月)



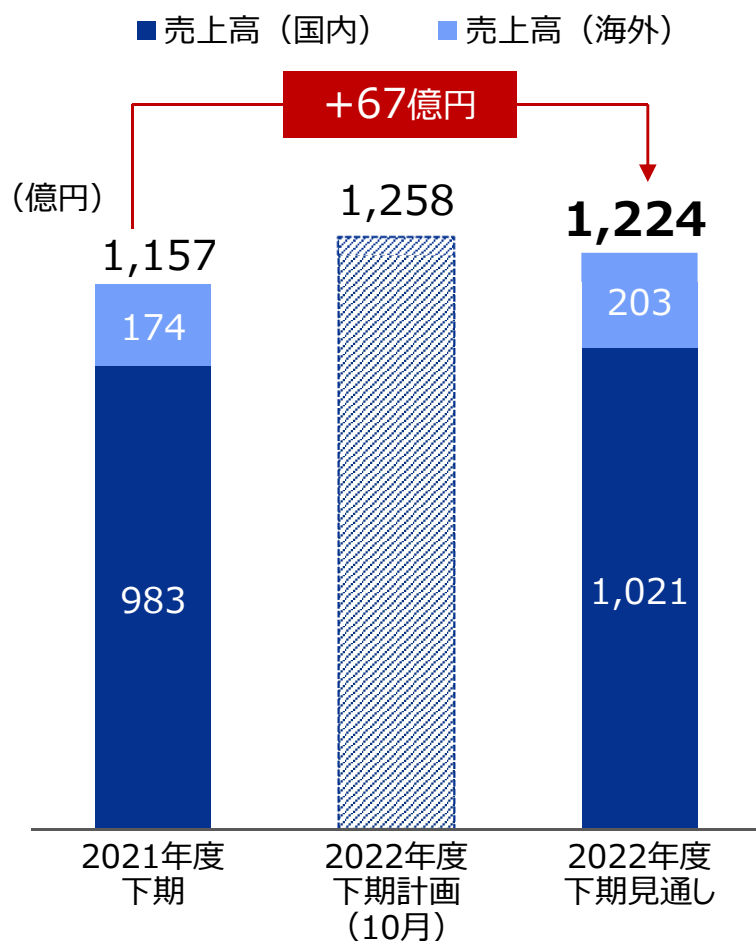
土地戦略

- 戸建まちづくりを軸とした分譲・建売販売の加速
 - 新分譲ブランド「ユナイテッドハイムパーク」の展開
 - 4Qで4プロジェクトの販売を開始 (総区画数：128区画)
 - 3Q新規売分譲・建売の拡販
 - 3Q新規売数：分譲119%・建売119% (対前年比)

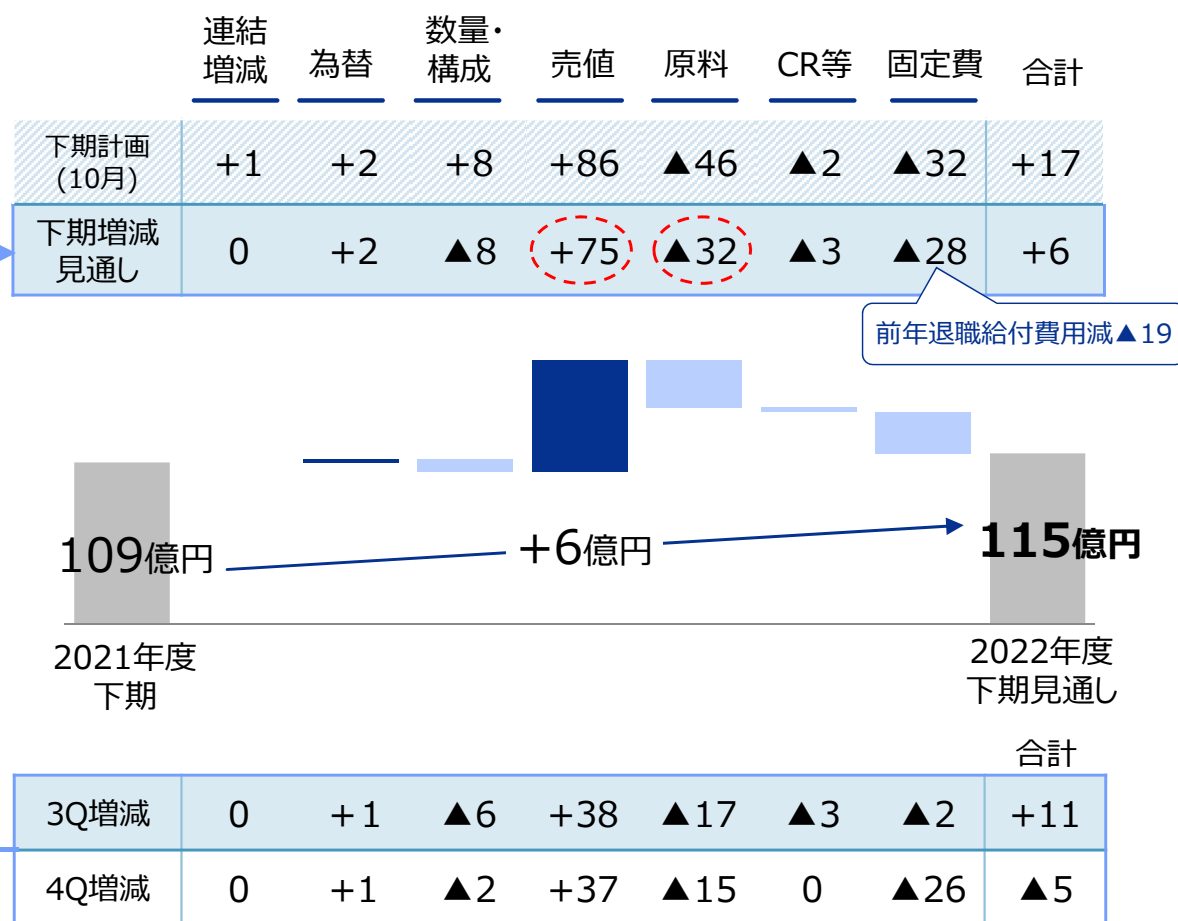
■ 住宅市況は想定を下回るも、重点拡大製品の拡販および、スプレッド維持に注力し、増益の見通し。
下期最高益を見込む

- ・ 国内：スプレッド確保徹底。重点拡大製品の拡販に注力
- ・ 海外：半導体関連向けプラント管材堅調。航空機需要（米国シート事業）は回復基調

売上高



営業利益増減要因分析

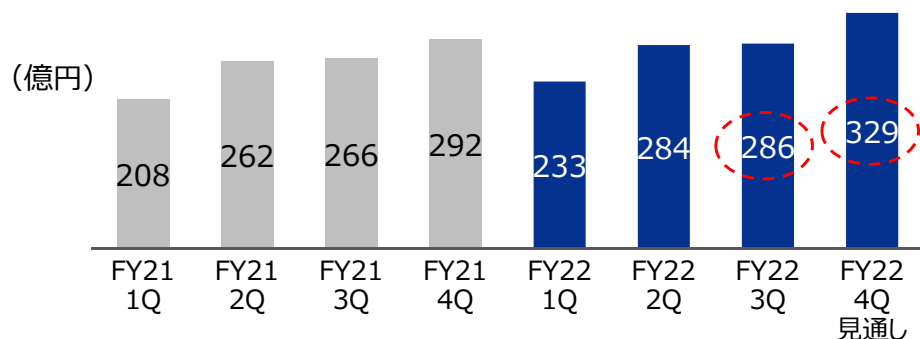


■ 戦略3分野とも「売値」改善効果により、年度増収を見込む

戦略3分野の売上高推移等

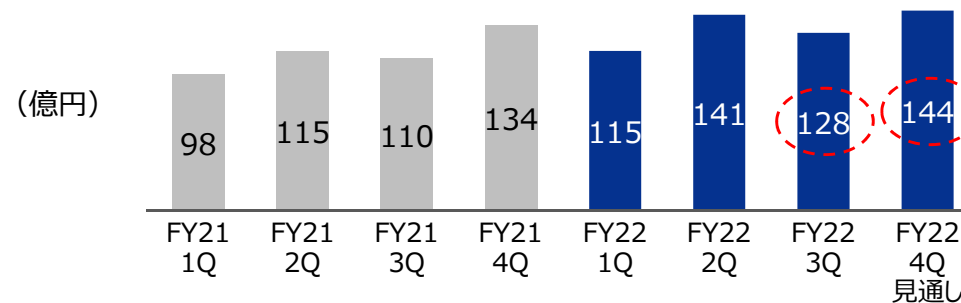
配管・インフラ

- 住宅市況は想定を下回る。スプレッド維持に注力
- プラント需要は堅調継続。重点拡大製品拡販



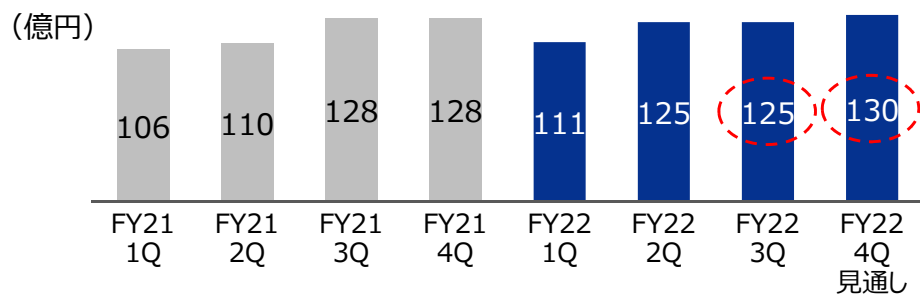
機能材料

- シート：航空機（国内線・改修）向け需要は回復基調
- FFU（枕木用途）：欧米中心に受注は堅調も遅延影響あり
- 成型：エレクトロニクス市況悪化により高機能成型品需要減



建築・住環境

- 大型高排水システムなど重点拡大製品の拡販堅調
- 売値改善に注力

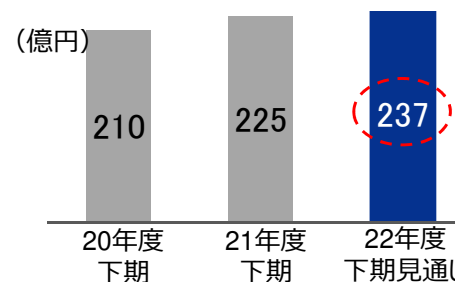


重点拡大製品*1売上高、海外売上高*2

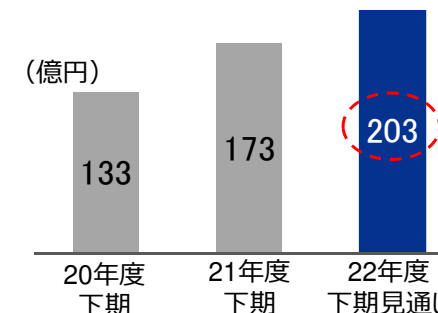
■ 重点拡大製品、海外売上高ともに伸長

重点拡大製品売上高

国内売上高比 22% → 23% → 23%



海外売上高

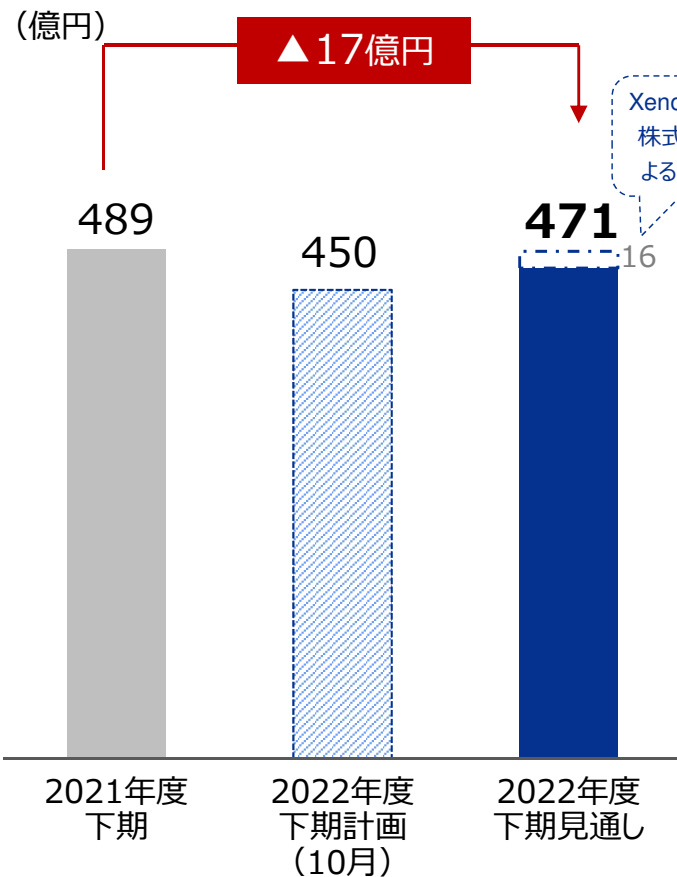


*1重点拡大製品：高付加価値、かつ市場成長・代替が見込める製品

*2国内製品輸出含む

中国ロックダウン、米国COVID-19検査キット承認遅延影響を、国内外検査需要増および堅調な医療事業によりオフセットし、計画（10月）通り、下期最高益を見込む

売上高

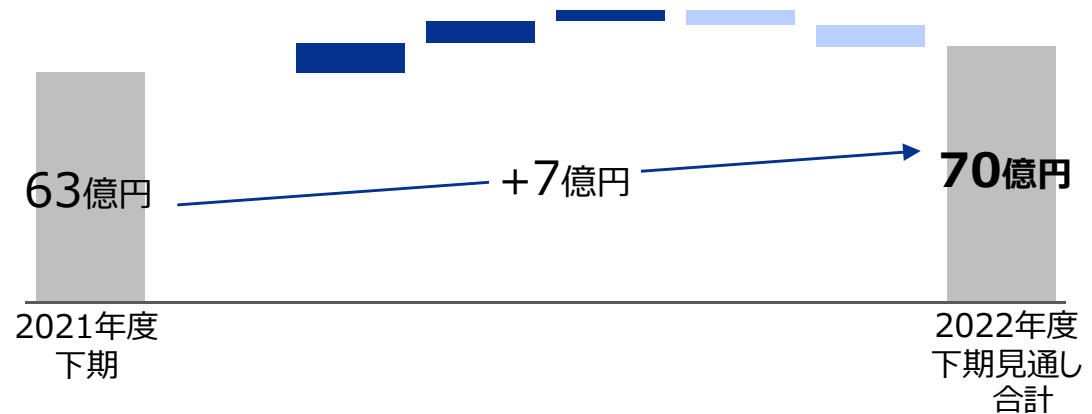


営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
下期計画 (10月)	0	+7	+5	▲3	▲6	+3	+7
下期増減見通し	0	+8	+6	+3	▲4	▲6	+7

欧米：+5、中国：0、アジア：▲2

治験費用増



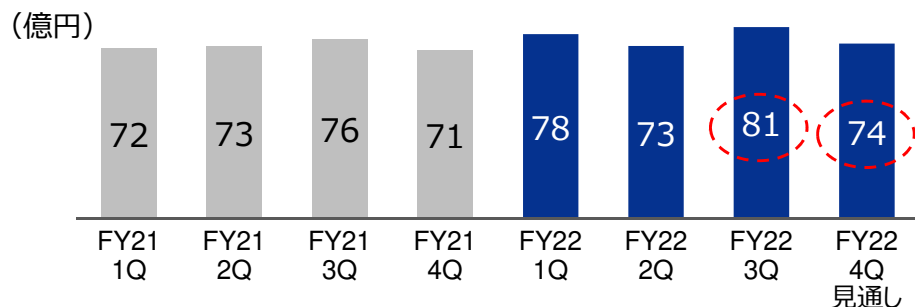
3Q増減	0	+5	+2	▲4	0	▲7	▲3
4Q増減	0	+3	+4	+7	▲4	+1	+10

■ 検査事業は国内外とも計画（10月）を上回って推移。医療事業も、計画（10月）をやや上回る見通し

事業別売上高推移と進捗状況

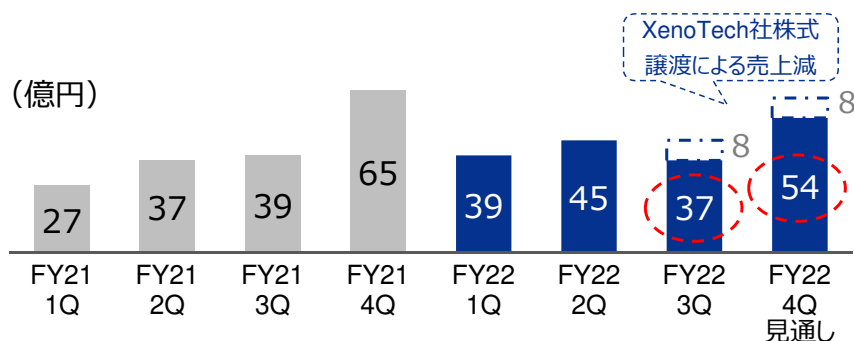
検査国内

- 3Q：COVID-19検査キットの需要拡大
- 4Q：堅調な外来検査需要は継続。COVID-19検査についても引き続き堅調な需要を見込む



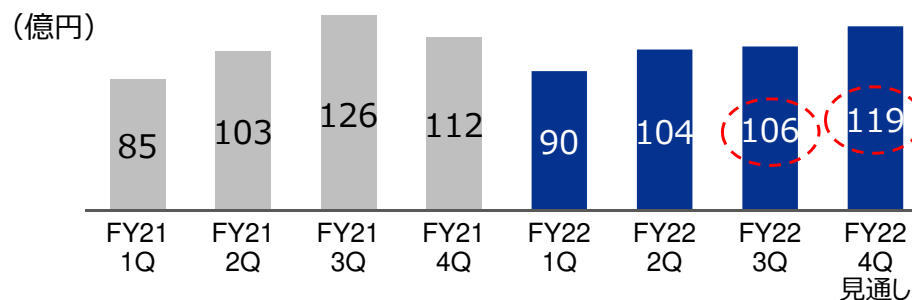
医療（医薬・創薬支援・酵素）

- 3Q：新規原薬が収益貢献
- 4Q：新規受注獲得に注力。創薬支援事業も堅調に推移



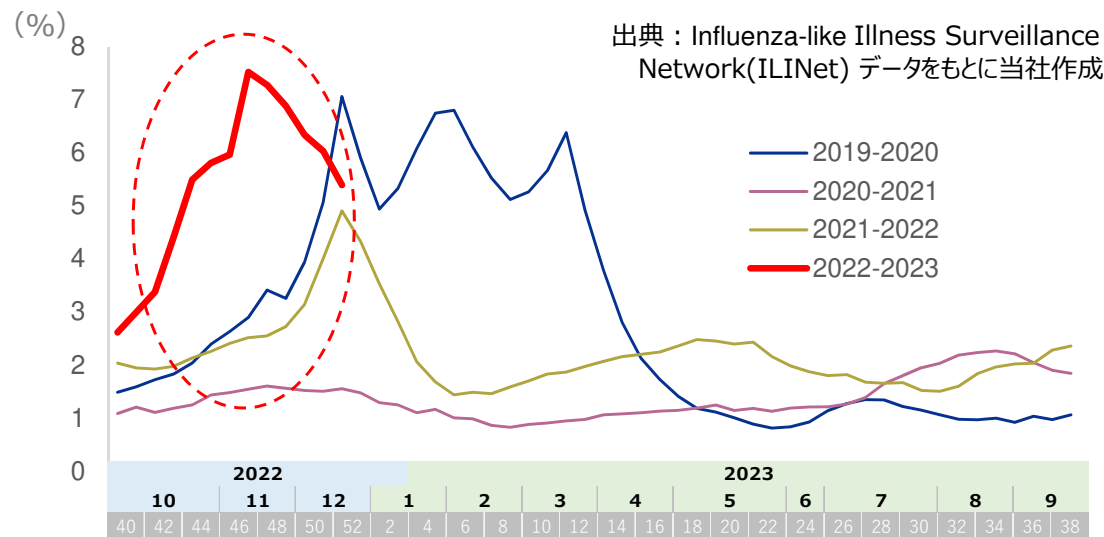
検査海外

- 3Q：中国ロックダウンによる需要減影響大。米国インフルエンザ検査の需要が拡大
- 4Q：米国インフルエンザ検査需要継続。中国での血液凝固検査機器拡販に注力



米国インフルエンザ需要動向

■ 2022-2023年呼吸器疾患による外来のうちインフル患者の割合（週次）



2022年度第3四半期 決算内容

連結対象会社数

	2022年3月末	2022年12月末	増減
連結会社	155社	150社	増加 1社* ¹ 減少 6社* ²
持分法会社	8社	7社	増加 0社 減少 1社* ¹

*1 栃木セキスイハイム(株)

*2 積水保力馬電子（上海）有限公司、PT. Sekisui Polymatech Trading Indonesia、Sekisui XenoTech, LLC.
積水高機能包装（廊坊）有限公司、Sekisui Systembath Industry (Thailand) Co.,Ltd.、(株)清流メンテナンス

連結会社増減等による影響等

	2022年度1Q-3Q (前年比)	増減
売上高	+2億円	Sekisui XenoTech, LLC. * ³ (株)清流メンテナンス* ⁴
営業利益	0億円	栃木セキスイハイム(株) * ⁵

*3 2022年度第2四半期中より連結除外

*4 2022年度第3四半期中より連結除外

*5 2022年度第3四半期中より新規連結

損益概要

(億円)		2021年度 1Q-3Q	2022年度 1Q-3Q	増減	
売上高		8,387	9,122	+736	
売上総利益		2,598	2,768	+170	
売上総利益率		31.0%	30.3%	▲0.6%	
販売費および一般管理費		2,023	2,144	+120	
営業利益		575	625	+50	
持分法投資損益		2	11	+9	為替差益 +53
その他営業外損益		52	99	+47	
経常利益		628	734	+106	株式売却益 +259
特別利益		259	12	▲247	
特別損失		511	15	▲496	Aerospace社 減損損失 +495
税引前利益		376	731	+356	のれん +374 無形資産 +121
法人税等		235	192	▲43	
非支配株主に帰属する四半期純利益		13	11	▲2	
親会社株主に帰属する四半期純利益		127	528	+401	のれん減損 +374は 税効果適用無し
為替レート (期中平均)	米ドル	111円	137円		
	ユーロ	131円	141円		

貸借対照表 -資産-

(億円)	2022年 3月末	2022年 12月末	増減
現金及び預金	1,445	947	▲499
売上債権	1,865	1,869	+4
棚卸資産	2,438	2,888	+450
その他流動資産	346	437	+91
有形固定資産	3,653	3,742	+89
無形固定資産	467	502	+35
投資有価証券	1,307	1,269	▲37
投資その他の資産	468	542	+73
資産合計	11,989	12,196	+207

棚卸資産 (B/S科目)	2022年 12月末	増減
建売住宅 (製品)	315	+58
造成済土地 (分譲土地)	593	+40
造成中土地 (仕掛品)	93	▲12
工事中住宅 (仕掛品)	417	+106
部材等 (原材料)	79	+15
住宅計	1,498	+206
非住宅計 (製品等)	1,391	+244
棚卸資産計	2,888	+450

取得 +369、減価償却 ▲313、為替 +53

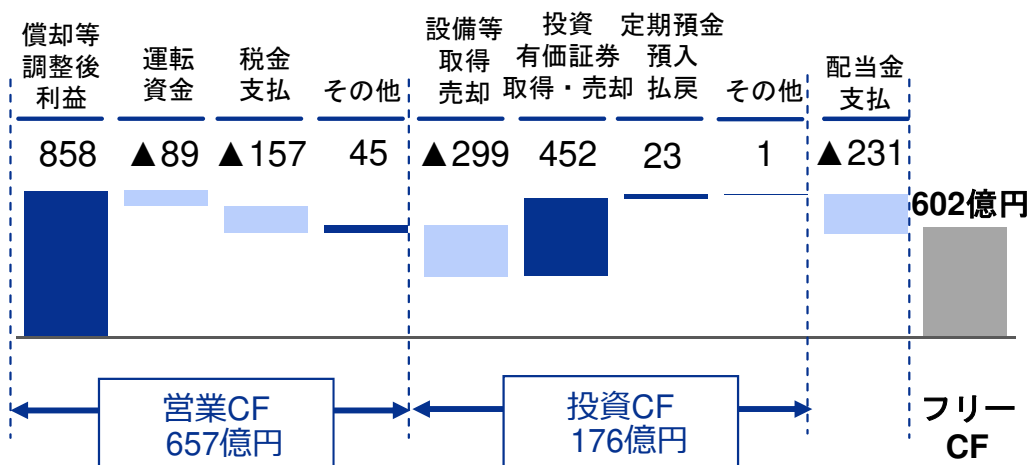
為替影響 +141
連結増減 +79
実質 ▲14

貸借対照表 - 負債・純資産 -

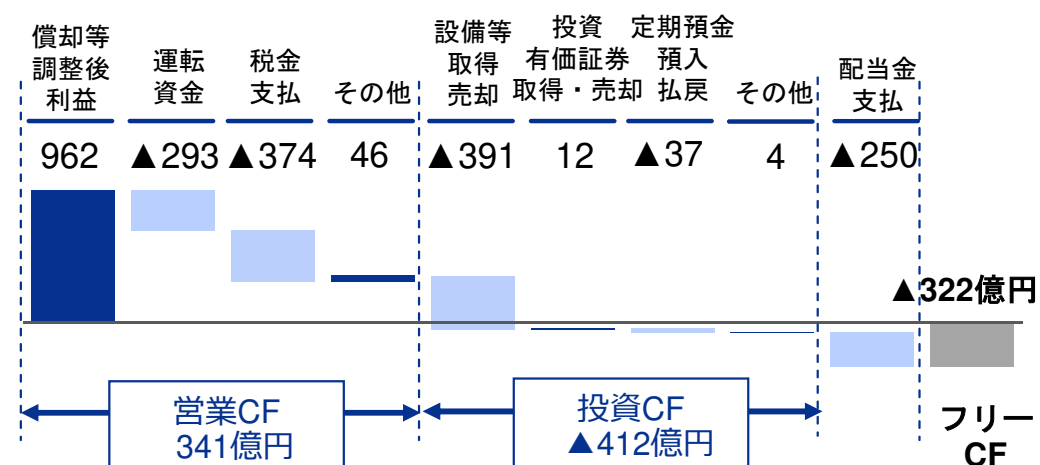
(億円)	2022年3月末	2022年12月末	増減	
無利子負債	3,736	3,756	+20	
有利子負債	1,226	1,322	+96	
(ネット有利子負債)	(▲220)	(375)	(+595)	
負債合計	4,962	5,077	+116	
資本金等	2,090	2,086	▲5	
利益剰余金	4,480	4,518	+38	四半期純利益 +528
自己株式	▲446	▲445	+1	配当金支払 ▲238
有価証券評価差額金	337	323	▲14	自己株式消却 ▲253
非支配株主持分	281	271	▲10	
その他純資産	285	365	+80	消却 +253
純資産合計	7,028	7,119	+91	取得 ▲252
負債・純資産合計	11,989	12,196	+207	為替換算調整勘定 +85
自己資本比率	56.3%	56.1%	▲0.1%	
D/Eレシオ(ネット)	▲0.03	0.05	+0.09	

(億円)	2021年度1Q-3Q	2022年度1Q-3Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	657	341
投資活動によるキャッシュ・フロー	176	▲412
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲531	▲475
現金及び現金同等物の増減額	312	▲533
現金及び現金同等物の期末残高	1,079	804
フリーキャッシュ・フロー = 営業活動CF + 投資活動CF - 配当金支払	602	▲322

2021年度1Q-3Q フリーCF



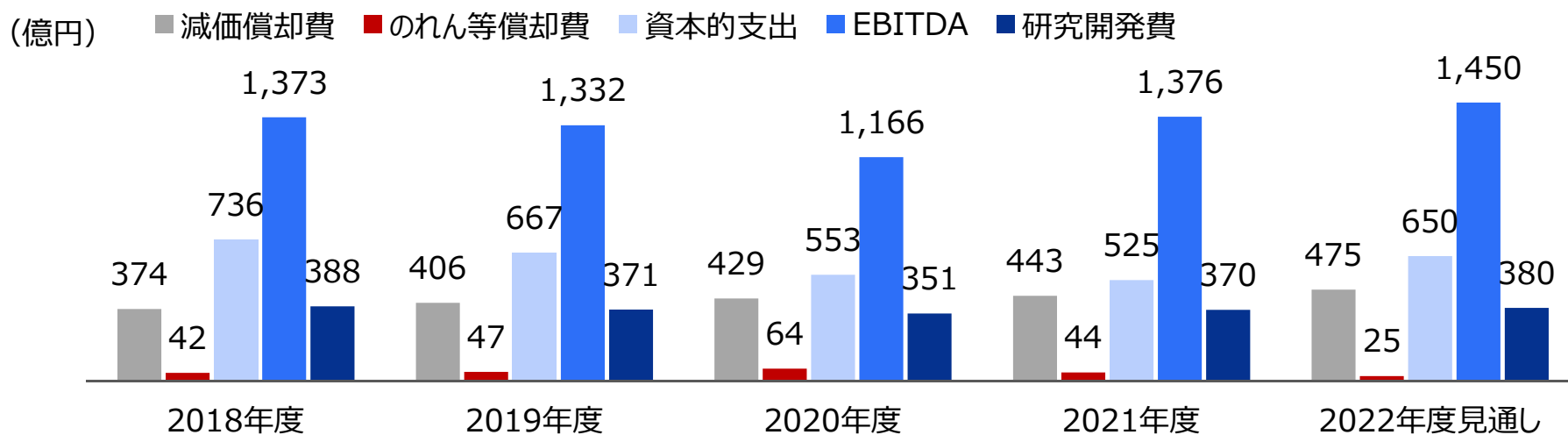
2022年度1Q-3Q フリーCF



減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2021年度 1Q-3Q	2022年度 1Q-3Q	増減	2021年度 通期	2022年度 通期見通し	増減
減価償却費*1	328	356	+28	443	475	+32
のれん等償却費*2	38	19	▲19	44	25	▲19
資本的支出	352	422	+70	525	650	+125
EBITDA*3	940	999	+59	1,376	1,450	+74
研究開発費	270	303	+33	370	380	+10

減価償却費・資本的支出・研究開発費推移



*1 減価償却費はM&Aによる無形資産の償却費は含まず

*2 のれん等償却費 = のれん償却費+M&Aによる無形資産の償却費

*3 EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん等償却費

スライドに記載されている見込、計画、見通しなど歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて作成されております。従って、実際の業績は、様々な重要な要素の変化により大きく異なる結果になりうることを、ご承知おきください。

* 本資料の億円表記の数値に関しては、億円未満を四捨五入で表示しています。

住宅カンパニー実績・計画について

* 12月新規連結の栃木セキスイハイム影響分を含む

1. 住宅事業の主要データ		2022年度				2021年度				2020年度 通期	
		上期	3Q	下期見通し	通期見通し	上期	3Q	下期	通期		
連結	売上高 (億円)	2,602	1,290	2,828	5,430	2,498	1,233	2,654	5,152	4,853	
	住宅	1,772	852	1,893	3,665	1,716	841	1,831	3,547	3,365	
	リフォーム	470	237	513	983	459	217	462	921	876	
	その他	360	200	422	782	324	175	361	684	612	
	不動産	258	127	286	544	247	122	258	505	477	
	住生活サービス	37	18	42	79	38	20	41	79	78	
	まちづくり	48	45	75	123	28	29	51	78	39	
	海外	8	5	8	16	6	2	6	12	13	
その他	1.販売棟数 (棟)	5,190	2,355	5,330	10,520	5,040	2,345	5,370	10,410	10,155	
	戸建	4,925	2,255	4,985	9,910	4,830	2,270	5,060	9,890	9,555	
	請負	4,185	1,970	4,205	8,390	4,075	1,960	4,330	8,405	8,385	
	建売	740	285	780	1,520	755	310	730	1,485	1,220	
	アパート等	265	100	345	610	210	75	310	520	600	
	2.主なデータ										
	単価<全国販社・戸建> (百万円)	32.9	33.9	-	-	31.6	32.5	32.1	31.8	31.3	
	坪単価<全国販社・戸建> (万円)	93.2	96.4	-	-	89.5	91.1	90.7	90.1	87.9	
	床面積<全国販社・戸建> (㎡)	116.4	116.1	-	-	116.4	117.9	116.8	116.6	117.4	
	展示場数(棟)	431	-	-	430	435	-	-	430	441	
営業人員数(人)	2,439	2,358	2,310	2,310	2,533	2,441	-	2,354	2,451		

住宅カンパニー実績・計画について

2. 受注状況等 (百万円)		2022年度				2021年度				2020年度			
		上期	3Q	下期見通し	通期見通し	上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
新築・リフォーム	期初受注残	185,000	186,900	186,900	-	184,800	192,500	192,500	-	205,400	194,500	194,500	-
	伸び率	±0%	▲3%	▲3%	-	▲10%	▲1%	▲1%	-	▲6%	▲11%	▲11%	-
	新規受注	203,360	93,539	208,657	412,017	200,607	94,491	198,850	399,457	175,319	91,265	190,806	366,125
	伸び率	+1%	▲1%	+5%	+3%	+14%	+4%	+4%	+9%	▲14%	▲2%	▲1%	▲8%
	売上高	201,460	99,539	216,957	418,417	192,907	93,491	206,350	399,257	186,219	90,065	200,506	386,725
	伸び率	+4%	+7%	+5%	+5%	+4%	+4%	+3%	+3%	▲10%	+1%	▲2%	▲6%
	期末受注残	186,900	180,900	178,600	-	192,500	193,500	185,000	-	194,500	195,700	184,800	-
	伸び率	▲3%	▲7%	▲3%	-	▲1%	▲1%	±0%	-	▲11%	▲12%	▲10%	-

3. 住宅着工戸数 (戸)		2022年度				2021年度				2020年度 通期
		上期	3Q	下期見通し	通期見通し	上期	3Q	下期	通期	
住宅着工戸数		442,894	223,185	416,106	859,000	445,674	219,811	420,235	865,909	812,164
上記のうち持家+分譲戸建着工(=A)		206,691	102,490	194,729	401,420	220,321	112,416	205,082	425,403	392,448
当社戸建販売棟数(=B)		4,925	2,255	4,985	9,910	4,830	2,210	5,060	9,890	9,555
当社シェア(=B/A)		2.4%	2.2%	2.6%	2.5%	2.2%	2.0%	2.5%	2.3%	2.4%

*2022年度3Q以降の“住宅着工戸数”と“上記のうち持家分譲戸建着工”は見通し

4. スマート系仕様装着比率		2022年度				2021年度				2020年度 通期
		上期	3Q	下期見通し	通期見通し	上期	3Q	下期	通期	
太陽光発電搭載		88%	89%	89%	89%	83%	83%	84%	84%	80%
蓄電池搭載比率		81%	83%	83%	82%	69%	72%	74%	72%	62%
快適エアリー		71%	71%	72%	72%	72%	70%	72%	72%	73%

SEKISUI